

特集論文の公募のお知らせ

2024年度日本選挙学会年報編集委員長

山本 英弘

2023年度日本選挙学会査読委員長

清水 唯一朗

○特集「選挙動員（仮題）」

2024年度年報編集委員会は、『選挙研究』40巻2号（2024年12月末刊行予定）の特集として「選挙動員（仮題）」を設けることを決定いたしました。この特集は、編集委員会からの依頼論文と、会員からの投稿論文で構成する予定です。

動員は選挙過程における重要な側面の1つであり、これまで多くの研究が蓄積されてきました。しかしながら、加入率の低下など団体・組織離れが進んでいると言われ、団体の動員機能が低下しているようにも見受けられます。一方で、SNSをはじめインターネットを介した動員が定着し、今日の選挙戦略として欠かせないものとなっております。このように、今日の政治、社会状況を見渡すと、選挙動員の性格にも変化が生じていると考えられます。この他にも、歴史的な視座を交えたり、他国との比較を通したりすることで、選挙動員という現象の本質に迫ることができるでしょう。

そこで、この特集では、あらためて選挙動員という基本的な事象を多角的に検討してみたいと考えております。分析手法、対象国・地域を問わず、選挙動員にかかわる幅広い論稿を募集いたします。会員の皆様の積極的な投稿をぜひお願い申し上げます。

投稿締切日 2024年 3月 31日（日）

投稿要領、執筆要領は以下をご参照ください。

<https://www.jaesnet.org/download/rules/JJES20200519.pdf>

○参考：査読スケジュールについて

現在、日本選挙学会は『選挙研究』論文投稿システムを通じて、投稿を受け付けています。受付終了後、査読委員会で審議を行い、匿名査読者の選定、ならびに査読依頼をしております。したがって、当該論文の完成度にもよりますが、投稿から最初の査読結果が戻るまでに要する時間はおよそ3ヵ月です。修正・再査読となった場合、査読結果に応じて再投稿がなされてから、最終結果が出るまでに2ヵ月ほど要します。修正・再投稿にかかる時間によりますが、最初の投稿から最終結果の確定まで、6ヵ月ほどの時間を見込んでください。

したがって、今回の特集に応募して締切日までに投稿すれば、翌年9月末までに査読のプロセスを終えて40巻2号に最終稿を入稿できることになります。ただしこれは査読および再投稿が円滑に進んだ場合の想定ですので、必ずしも40巻2号への掲載が保証されるわけではないことをご理解ください。

なお、査読を経て掲載が決定した論文につきましては、年報編集委員長名で掲載決定の証明書を発行することが可能です。